

令和4年度 関西学研医療福祉学院 自己評価

令和5年5月2日実施

※ 令和4年度 自己点検自己評価（令和4年4月1日～令和5年3月31日）による

大項目	点検・評価項目	実施・検討事項	学校評価	コメント
			優れている・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 改善が必要・・・1	
1 ・ 育 成 人 材 像	1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	本学院は平成10年の開校以来、ヒューマニズムを核として専門分野における社会貢献、実践力を身につけた人材の育成を目的に掲げて学校運営を行っており、この理念に沿って教職員一同行動した。	3.6	本学の理念・目的は建学以来、常に「正義」「友愛」「奉仕」をもとに学生・教職員あるいは学外者にも広く知られており、ホームページ、学生便覧、学校案内等にも明記されている。また本学では、特色ある学校として5つの学科を有しており、専門職連携教育を推進している。今後も一層活性化するためチーム医療を絶えず念頭におき、人間力を高め、社会に貢献、還元することを忘れてはならないと考える。
	1-2 学校の特色は何か	福祉・リハビリテーション・看護分野の5学科が揃う本校は、チーム医療に必要な豊富な「知識」、高度な専門「技術」とともに、豊かな「人間性」をそなえた福祉・医療のスペシャリストを育てている。	3.8	
	1-3 学校の将来構想を抱いているか	日々進歩する医療・福祉業界の変化に対応する教育環境を整え、専門学校生として能力を発揮できる人材を輩出することを使命と考えており、教職員一丸となって日々行動した。	3.6	
2 ・ 学 校 運 営	2-1 運営方針は定められているか	毎期ごとに運営計画を定め、教職員に周知徹底を図っており、月一回開催の運営会議および教職員会議等を通じて教職員に徹底した。	3.6	運営は、標準的に実施しているが、時代の変化とともに幅広い情報を容易に知ることができるインターネット環境の整備（校内Wi-Fi、e-learningサーバーの拡充、Web会議システムの導入等）教育環境を更に整える必要があると考える。現状ではつないでいる間に回線が切れる等もあり、整備が必要。 デジタル化で業務の効率化を進めてはいるが、相手先のこともあり、なかなかスムーズにいかないケースもある。（紙ベースのやり取りが減らない） また人事考課を刷新しうまく運営できる仕組みをつくる。勤怠システム導入し、働き方を見直すきっかけは出来たが、まだアナログと併用しているので、今後さらにデジタル化を進めていく。
	2-2 事業計画は定められているか	外部・内部環境の変化に対応すべく期首に検討し、教職員には月一回開催の教職員会議等を通じて徹底するよう努めた。	3.6	
	2-3 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	組織図に基づき、学校全体・学科毎の体制が明確にされており、運営会議等にて重要事項に関しての意思決定は速やかに行われ、各学科においても学科長のもとスムーズに行われた。今後もスムーズな意思決定の運営を目指す。	3.4	
	2-4 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	就業規則や目標達成度にとり公正な人事考課を行っている。その中で、業務実績や勤務態度に関しては評価できるもののスキルに関する能力評価がやや不足していた。	2.4	
	2-5 意思決定システムは確立されているか	学院長・事務長等の学校幹部出席の教職員会議等にて意思決定を図っており、教職員会議等にて協議・決定がなされた。	3.4	
	2-6 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	学生に関しては、前年度に引き続きオンライン授業があったことから校内Wi-Fi環境を充実させた。学生個々のIDを作成し、提出物や個々への対応がスムーズになり効率よく行えた。職員に関しては、業務の効率化は常に改善することが大事と考えており、勤怠管理システムにより自身の働き方を意識した勤務実績となった。	2.8	

3 教育活動	3-1 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向づけられているか	医療・福祉の業界ニーズを常に把握し、要望に合った人材の育成を目指しており、実習先の意見・教員の情報等に基づき学生の指導にあたった。	3.3	一年次より体系的を意識しながら時代に対応すべく、カリキュラムについて不断の見直しを行っている。 これまでも少人数教育や問題解決能力を高める教育を推進しているが、今後も内容を充実させたい。 実習においては、未だ新型コロナウイルスの影響があり学内代替実習も併用している。 将来の方策として ①早期臨床体験実習ができるよう附属施設や母体病院との連携を密にし横断的な学習機会を得らえるようにする ②医学基礎教育が徹底できるよう専任スタッフを充実させ、教育を主たる業務として担当する人員を増やすことも必要である ③組織的な教育能力形成（Faculty Development）を一層活性化し教育活動の質の向上を目指す（公表も行う）等が考えられる。
	3-2 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか	全学科とも学生便覧に学年毎の教育課程の履修時間数が明記されており、シラバスに沿って学生に説明を行った。	3.6	
	3-3 カリキュラムは体系的に編成されているか	指定規則、ガイドラインに定められているカリキュラムを整備している。またカリキュラムマップを作成し教育課程を可視化している。さらに各学科特色あるプログラムの実現に向け遂行している。	3.8	
	3-4 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか	専門知識の取得を図るとともに国家試験合格に向けた内容になっており、各学科教員は高い意識のもと学生の指導にあたった。	3.6	
	3-5 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか	入学前授業から始まり、在学中の実践力養成及び卒業後の研究指導まで行っており、各学科、全教員積極的に指導を行った。また卒業後も勉強会等を開催している。※新型コロナにより、卒業生対象の勉強会は行えず。	2.9	
	3-6 授業評価の実施・評価体制はあるか	毎授業毎に理解度チェックを行い、授業の到達レベルを把握している。	3.2	
	3-7 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	専任教員は、以下のいずれかには該当しており、教員の質を担保している。 ①現場経験が5年以上の者 ②学士の学位を有する者、またはそれに準ずる学識、教育、研修修了者である ③研究業績のある者 ④各協会の会員 非常勤講師は、現場でご活躍の先生方が多く専門性の鮮度も高い。	3.8	
	3-8 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	成績評価は学則に明記をしており、授業科目内容に合致した客観的評価を実施している。単位認定、進級・卒業認定を設け、厳正な判定を実施している。	3.6	
	3-9 資格取得の指導体制はあるか	国家試験対策等は各学科毎ではあるが、個別指導等を行い学生指導にあたった。継続して国家試験100%合格を目指す。	3.8	

4 教育 成果	4-1 就職率（卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率）の向上が図られている	4年度も全学科、就職希望者は希望の分野に全員就職でき、就職率100%を達成できた。今後も100%を目指す。	4.0	資格取得は本学の最もコアな部分であり、100%は常に意識している。退学について低減しているが、退学事由に学力不振が多い。学力不振者等に対し、学年担任や所属長が面談・補講等でケアを行っているが、ストレスが高くなる学生が多い。
	4-2 資格取得率の向上が図られているか	国家試験対策は各学科毎に、個別指導・模擬試験の実施等で合格率の向上を目指している。看護学科、理学療法学科は、100%達成。言語聴覚学科は、91.9%（全国平均ならびに本校前年度合格率を上回る）、介護福祉学科は96.3%（全国平均より上回る）と対策の成果が出た。しかし作業療法学科については、79.3%と全国平均91.3%から大きく下回り改善ができなかった。原因の洗い出しをし、改善に努める。	3.0	
4 教育 成果	4-3 退学率の低減が図られているか	開校以来、中退者ゼロを目指している。退学率は全体で6.37%であり全学科とも退学率は減少傾向にある。しかし令和3年専門学校生の修学状況に関する調査による全体の割合（3.11%）に比べると本校の退学率低減は急務であると考える。	2.3	これは学生本人の人生に関わる大きな問題である。中でも学生生活不適応、心身耗弱の理由が増加しており、メンタルサポートのシステムを設けていくことが望ましいと考える。
	4-4 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	同窓会の開催時の情報交換、事例研究会、卒業後の勉強会等を通して、卒業生等の活躍の把握はしているが、ここ2年、コロナで開催できていない。	2.6	

5 学 生 支 援	5-1 就職に関する体制は整備されているか	求人票はいつでも閲覧ができるように整備されている。就職面接でのマナー（接遇）や履歴書指導など担任を中心に実施している。	3.4	就職サポート、学生の個別面談、問題が起きた際の保護者への連絡等、迅速に対応している。 しかし実際にうまく行かないケースもあり、教員自身が思い悩むことも多い。障がいのある学生への支援体制が内部教員にとどまらず専門家にアドバイスを頂くなど整備している。
	5-2 学生相談に関する体制は整備されているか	定期的に個人面談を実施し教員間で学生の状況を共有し対応している。	3.6	
	5-3 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	専任の学費アドバイザーが常駐し個別のケースに応じた対策を学生に提供しており、独自の奨学金制度もある。	3.4	
	5-4 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	毎年4月に健康診断を実施しており、提携病院等の協力もあり学生の健康管理には万全を期している。コロナ感染予防も徹底した。	3.6	
	5-5 課外活動に対する支援体制は整備されているか	地域・施設からの支援要望のポスター等を掲示、地域のまちびらきイベントに参加、企業訪問等コロナ感染対策をしながら参加した。	3.2	学生、教職員の安全確保ならびに健康を確保するため衛生管理の向上をはかる衛生委員会を設置している。 ・産業医、衛生管理委員メンバーによる職場巡視 ・法定健康診断等ある。
	5-6 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	学生寮は所有していないが、一人暮らしをする学生のための提携寮はあり、また近隣の不動産業者とも提携し学生の要望に応じている。学生寮の所有計画は現時点ではない。また、遠方入学者に対し経済的支援を行っている（遠方入学者支援制度）	3.0	
	5-7 保護者と適切に連携しているか	各学科毎に、欠席が3～4日続くと保護者には電話連絡を入れており、また学科長・担当教員が保護者・学生との三者面談を随時行っており、きめ細かく対応している。（時には事務局も加わって対応している）	3.6	
	5-8 卒業生への支援体制はあるか	再就職支援、勉強会、研究発表会の論文指導等を行っているが、今年もコロナ禍のため、勉強会等は中止した。再就職支援については、コロナ対策をしながら卒業生が来校し面談をしながら就職につなげた。	3.0	

6 教育環境	6-1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	厚生労働省養成基準に則り、医療・福祉機器を設備し、教材等も装備している。経年劣化は否めないが、整理整頓を心掛け、使用には問題の無いようメンテナンスも行う。今後も新カリキュラムに合わせ、順次最新機器に入れ替えていく予定。	2.8	・経年劣化している設備もあり、順次、改善・改修を求めている。学生は、自習室の充実、食堂等を希望している。敷地内に余裕がなく新設は困難であるが効率的に利用ができるよう自習スペースの確保に努めたい。
	6-2 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	学外実習は厚生労働省の定める時間数はクリアしており実習先の指導者とも密に連携をとっている。介護福祉学科において福祉留学（希望者のみ）という新しい取り組みを実施できた。海外研修については、作業療法・介護福祉学科が毎年実施しているが、今年度も新型コロナの影響で実施できなかった。	3.0	・オンライン蔵書検索ができるよう整備をしていきたい。
	6-3 防災に対する体制は整備されているか	緊急時の連絡表を作成して備えており、防災訓練も定期的に行っている。また防犯対策の訓練も教職員全員で実施した。	3.2	・学外実習に関して、コロナ禍で調整は大変であるが、各施設のご協力により昨年度より回復している。
7 受 学 け 生 入 の れ 募 集 と	7-1 学生募集活動は、適正に行われているか	募集要項に記載した試験日、出願日を遵守しており、オープンキャンパス及び保護者説明会の参加者へは本学院の実態を正確に伝えている。また、受験を煽るような文言も使わないようにしている。コロナ禍も収まり、オープンキャンパスや、ガイダンスは予定通り開催できた。	3.3	高校生の動きは戻りつつあるが、社会人の動きが鈍く、オープンキャンパスの動員に影響し、募集に苦労した年度であった。
	7-2 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	国家試験合格率・就職率等については正確な数字を伝えている。	4.0	オープンキャンパスでは正確な情報を伝えることを心がけており、入学後の学生生活を正しくイメージできるような告知をしている。
	7-3 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	入試判定は、学院長・事務長・学科長及び面接担当者が参加して、成績に基づいて公正に判定している。	3.6	次年度定員達成を目指すのは当然であるが、予期せぬ出来事にも対応できる、足腰の強さを持たないといけない。
	7-4 学納金は妥当なものとなっているか	妥当なもの判断している。	3.4	
8 財 務	8-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	学生募集は定員確保に満たない学科もあるが、財務基盤は安定しており、この状態を続けるべく教職員一同努力を続けていく。	3.4	・全体的には、適正に行われていると理解している。
	8-2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	毎期、大きな狂いが生じておらず、妥当と判断する。	3.4	・予算策定にあたり、収支の均衡と教育の充実を期するため重要視しているが、学生募集の低迷とともに限られた予算枠をより有効に活用するかは今後も課題を残されている。
	8-3 財務について会計監査が適正に行われているか	毎期、適正な会計監査を行っている。	3.4	
	8-4 財務情報公開の体制整備はできているか	公開資料は事務室に常備しており申請により閲覧に供している。	3.4	

9 法令等の遵守	9-1 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	法令順守の精神のもと適正に厳格に運営している。	3.6	個人情報保護に関しては、かなり浸透してきているのではないかと。常に緊張感を持って取り組んでいきたい。
	9-2 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	個人情報保護法のもと、在校生・説明会参加者等の情報が流出しないよう万全の注意をしており、より強固にして行く。	3.6	
	9-3 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	年度末に自己点検・自己評価を行い、常に改善点はないか注意している。	3.6	
	9-4 自己点検・自己評価結果を公開しているか	自校ウェブサイト上で閲覧できる。	3.6	
社会貢献	10-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	奈良県の理学・作業療法士会、介護福祉士会及び言語聴覚士会の研究会の利用に供している。	3.4	地域保健・医療の観点から地域との交流を実施し、一次予防の重要性や社会復帰された患者様の生活等を学ぶ重要性を感じている。カリキュラムに系統的に組み込む作業を行っていきたいと考える。
	10-2 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	地域清掃等、各学科毎に活動していますが、より奨励・支援していきたい。	3.2	
国際交流	11-1 グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか	作業療法学科・介護福祉学科の海外研修及び海外からの講師講演（不定期）今年もコロナ禍で中止となった。	2.2	コロナが落ち着いた際には、海外研修を復活させる。